# 平成３０年度善誘館小学校外部評価書

平成３１年３月　５日作成

学校関係者評価委員会
実施日：平成３１年２月２５日（月）午後４時２０分から５時３０分
会　場：善誘館小学校校長室
参加者：学校関係者評価委員　　志村　雄二（学校評議員）・林　昌明（学校評議員）
髙原　幹夫（琢美地区自治会連合会会長）
戸次　葉子（ＰＴＡ会長）・望月　光洋（ＰＴＡ副会長）
学校側　　柏木　精一（学校長）・望月　正紀（教頭）・坂本　暢（教務主任）

１　学校側からの説明
（１）自己評価結果についての説明　（教頭）
「善誘館小学校自己評価書」及び「善誘館小学校自己評価・児童用アンケート・保護者用アンケート分析結果」に基づく説明

（２）事前に寄せていただいた意見についての回答・説明
・「アンケート調査内容（質問項目・データ等）について」，「児童への質問項目：問２３【登下校するとき危ないと思ったことがあるか】に対して『ある』と回答した児童が多く，具体的にどんな場面か把握できれば安全対策につながる」という指摘に対して，質問項目の内容が入れ違っていたための間違いで，正しくは【ふだん交通ルールを守っているか】という質問内容であったと訂正をした。（追加訂正資料配付）
　また，「保護者用データの調査総数が少なくて気になる。多くの保護者に協力してもらうことにより，保護者にとっても，子どもの生活の見直しや地域への関心の高まりなどいろいろな気づきを得られる機会となる。」という指摘に対し，掲載したデータが３学年保護者２１名分のものであったため，本来の保護者調査総数１２６名分のデータとの差し替えを行い訂正した。（追加訂正資料配付）

２　協議　（議長：戸次　ＰＴＡ会長）
自己評価書から受ける善誘館小学校の実態（本年度の重点目標への取組についての特徴，要望等）
＊各事項について，協議でのまとめでなく，それぞれの感想や思いを語る形式で進行した。
（１）平成３０年度善誘館小学校の教育活動・学校運営について
・（アンケート結果について）少人数の学校だからこそのプラス面もある。手厚い指導が行われていると思う。
・（善誘館教育推進会議での１年間の学校教育活動の様子を見て）行事が多く，教師の苦労が伺われた。逆に，行事が多すぎではないかと心配になった。
・縦割り活動や他学年との関わりが多い。いろいろな行事の中で，上の学年の子が下の学年の子の面倒を見る場面が多い。
・この学校に通学していてよかった。すべての子どもを知っていて，いろいろな話もしてくれる。欲を言えば２クラスあるとよい。少人数なので行事を行うのが大変だと思う。
（２）平成３０年度学校評価重点目標への取組について
①「よりよい人間関係づくり」について
・１つの学年児童数が少ない中，５・６年，３・４年などブロック単位での活動は非常にいい考えだと思う。大学生でも社会人になってすぐに仕事を辞め，ニートになる者がいるが，「自分天下」な考えで，グループ等で活動する機会が少ないことも一因ではないか。世の中に出

てから役立つための知識・技能を身に付ける努力と工夫が必要ではないか。
・「折り合いがつけられる」ことも必要だと思う。クラス替えがないから，ブロック単位で一括りしたり，上級生が下級生とふれあう機会を設定している。自分の考えを言葉で伝える機会も増やしていきたい。単級であることで，一度過去に起こったトラブルがそのまま継続してしまうことがデメリットの一つになっている。
・人数が多いとトラブルになった人間関係を避けることもできるが（本校では）難しい。
・人間関係の固定化は自立しないことにつながる。「嫌じゃやめる」という考えになる。自立し，思考し，表現し，社会の中で共生していくためには，あいさつや自己表現など，自分の言葉で発する機会を多くしたい。「無言清掃」など，しっかりできるスタイル作りも必要。（子供たちを）地域で育てる環境づくりが「地域とともにある学校」につながっていくと思う。親も自分から発信し，協力者が一人でも多くなる方向をめざしたい。
・困り事などがあっても言えないような,関係作りが苦手な親がいるのではという心配もある。
・困っていても誰にも言えない親もいた。（過去の経験では）転校してきた子供がサッカーのスポーツ少年団に所属したことから，親の関係作りもうまくいった。地域社会やスポーツ少年団等での人間関係作りも大切だ。善誘館小は子供たち同士が仲良しとの評判がある。団結力や助け合いの精神もある。
・何か事があれば協力してそれに当たっている。ＰＴＡ教育講演会でも数年来の外部講師が口をそろえて「素直な子供たち」と褒めていた。日頃から素直さの表現ができていると思う。
・子供たちの声の掛け合いや受け容れる素直さがある。小集団の本校から，大集団である中学校に進学した中学校１年生時には，最初，戸惑いはあるがすぐに理解し合える。
・いじめ問題などに関しても，日頃から細やかな取り組みがされていると思う。
・「ＳＯＳボックス」,「絆ボックス」など，困り事を最小限にする取り組みもなされている。
・子供たちの困り事の具体的な内容を聞き取り，対策にも取り組んでいるが，子供のことなので書いたり訴えてきたりした内容と現実とのギャップがある。
・（子供同士のトラブルは）親がよく話を聞く中で，保護者同士の関係作りにも気をつけながら対応する必要を感じる。いじめ問題など，複数で一人の子に対することがある。周りの子が止めないのだろうか。
・大人の世界にも，そんな傾向があるのではないか。保護者の中でも，声を大きくした人の意見がまかり通るような現実がある。
・「見て見ぬふりをする」のはいけないとわかっていてもなかなか改善できないのではないか。
・（いじめられた子を）孤立化させるような悪い傾向もあるのではと心配している。

②「言語活動の充実」について
・どのぐらいの年齢から思いの表出化が始まるのか。
・一般的には，９～１０歳ぐらい。体験できないような抽象的な概念を語りだせるのは，小学校５・６年生ぐらいからではないか。
・家族の中での会話が大切。会話がなければ思いの表出もできない。また，メールのやり取りの中で，短文ならよいが，長いメールはいじめにもつながっていく恐れがある。
・ＳＮＳ等の問題が叫ばれているが，本当にそんなに長時間やっているものなのか。
・やはり問題になっていてトラブルも起こっている。ＳＮＳを使うときには，家庭内でのきちんとしたルール作りが不可欠。その上で，友達にも宣言する。学校でも（２１：００以降禁止）等のルール作りが必要。
・東中学校での取組が参考になる。全校体制で取り組まないと個人では難しい。
・パソコン（以下ＰＣと略）やメールの影響もあると思うが，漢字が書けない社会人が多くなってきているように思う。ＰＣで資料等を打ち出す時も，下書きは手書きでする必要がある

と感じる。
・確かに，仕事をしていてＰＣのみだと漢字が書けなくなる現状がある。
・ワープロの時代はその逆で，できるだけ下書きしないで打てと言われていた。
・便利なスマホで，分からない事柄をすぐに検索するのも却って（頭を使わないので）よくないと言われている。
・電話番号なども，以前のように覚えなくなっている。
・「読み聞かせ」も，考えながら本を読ませると読みが広がる。途中で止めて考えさせるような指導をすれば，実際の場面での適応性が育てられるのではないか。
・道徳などの授業の中では，そんな指導方法で実際に考えさせている。
・読書感想文への取り組みの中で，内容を読み取ることはできるが想像して書くことが苦手。弱い。動画情報を受け取ることが多いのも原因の一つか。「読み聞かせ」の中でも，想像力を育むような取組を行ってほしい。
・テレビ（以下ＴＶと略）の悪影響かも知れないが，確かにイメージの狭まりが感じられる。俳優などのイメージがそのままで伝わり想像の余地がなくなってきている。話の内容をより詳しく考え，イメージすることが必要。
・読書活動はイメージの世界を広げ，ＴＶは限定する。小学校の教材の中には，話の続きを想像して児童が物語を書くという学習活動も設定されている。
・学びは人それぞれだが，あるレベルまでは，みんな同じように一斉指導で，上のレベルになったら，それぞれが別々な方法を考えながら取り組むような形が大事だと思う。一つの問題を何種類ものやり方で解いていくような指導も必要。
・一つの答えに向かって，解いていく道がいくつもあるという考え方は大切だと思う。

③「たくましい体づくり」について
・「たくましさ」とは，筋肉隆々ということではなく「強い内臓づくり」だと思う。肺の強さでもある。２時間連続して考え続けることは，まさしく体力が必要なことでもあるし，先ず体力をつけ，その上で学業を身に付けることが大事。
・「２００７年生まれは，１０５歳まで生きる」というような話を講演会で聞いた。（小学生の）現在は，人として育っていく基礎部分をつくっている。「今，みんながやっていることがとても大事」ということをしっかり伝えてほしい。今の若者の現状から，日本の将来を考えると不安がある。ＡＩ化の与える影響も心配。「日々の勉強」「体力づくり」の大切さを教えていってほしい。
・「こずるさ」などに対抗できるような，「しなやかさ」や「したたかさ」をもった「たくましい」子供たちの育成をめざしたい。
・封建時代といわれる江戸時代は，惨めな時代だったとも考えられているが，本当の意味での文化を作ったのは江戸時代であったと歴史を学んで気づいてきた。惨めだといわれた庶民に権利がない分，責任もなかった。江戸時代も含め，いろいろな場面から時代を見直す必要があると思う。

④その他
・昨年も指摘したが，評価項目については，同じ項目で比較できるよう整理すると分かり易い。統計では，とても大切なことなので気をつけてほしい。
・ご指摘を受け，評価項目の見直しを行った。一部，まだ，整合性が図れない項目もあるため，今後も見直しを進めたい。

報告書作成責任者　戸次　葉子（ＰＴＡ会長）